

会 議 録

| | |
|-------------------------------------|--|
| 会 議 名 | 第15回米原市いじめ問題対策連絡協議会 |
| 開 催 日 時 | 令和4年5月16日(月)午後6時～7時10分 |
| 開 催 場 所 | 米原市役所本庁舎 コンベンションホール |
| 出席者および欠席者 | 出席者：平尾道雄市長(会長)、田辺善行委員、黒川輝彦委員、坂梨利隆委員、要石祐一委員、馬淵均委員、上橋純子委員、澤田隆文委員、富田正孝委員、谷本政信委員、岡島雪枝委員、日比繁樹委員、北村和子委員、宮川裕行委員 欠席者：河居郁夫委員、西澤徹委員 米原市：宮川総務部長、松岡福祉事務所長、吉田人権政策課長、山口学校教育課長、澤人権政策課課長補佐、藤木少年センター所長、松蔭主幹、長澤主幹、橋本主任 |
| 議 題 | 【報告事項】 ① 米原市いじめ対策の概要について ② 令和3年度米原市におけるいじめ事案の概要 【協議事項】 ① 令和4年度米原市いじめ問題対策連絡協議会の事業計画について 【意見交換】 |
| 結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。) | 【報告事項】 ① 米原市いじめ対策の概要について ② 令和3年度米原市におけるいじめ事案の概要 【協議事項】 ① 令和4年度米原市いじめ問題対策連絡協議会の事業計画について 承認 【意見交換】 各委員それぞれの立場から、いじめをテーマとして考えや経験について話し、意見交換を行った。 |
| 協議経過 | 令和4年度の事業について、計画のとおり進めていくこととなった。また、関係機関で引き続き連携をとっていじめ対策を行うことを確認した。 |

| | |
|--------------|---|
| 会議の公開・非公開の別 | <input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 一部公開または非公開とした理由 (米原市情報公開条例第7条第5号の規定による) |
| 会議録の開示・非開示の別 | <input type="checkbox"/> 開示 <input checked="" type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：米原市情報公開条例第7条第5号の規定) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：) |
| 全部記録の有無 | 会議の全部記録 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 録音テープ記録 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 |
| 担 当 課 | 総務部 人権政策課 |

【第 15 回米原市いじめ問題対策連絡協議会（主な意見等）】

報告事項 ①米原市いじめ対策の概要について

（事務局）資料 2～4 に基づき説明を行った。【詳細説明省略】

（会 長）事務局の説明について、委員の方から意見や質問があればいただきたい。

《委員からの意見等なし》

報告事項 ②令和 3 年度米原市におけるいじめ事案の概要

《米原市情報公開条例第 7 条第 5 号の規定により非公開》

協議事項 ①令和 4 年度米原市いじめ問題対策連絡協議会の事業計画について

（事務局）資料 7 に基づき説明を行った。【詳細説明省略】

（会 長）事務局の説明について、委員の方から意見や質問があればいただきたい。

《委員から意見等なし 承認される》

意見交換

（委員） 学校現場の苦勞がよく分かった。家庭の教育力について心配している。昔は大人
数で暮らし、周りの大人からしつけられた。人の嫌がる事、喜んでくれる事とかを
教えてもらっていた気がする。今は核家族化が進み、家庭で子どもとの意思疎通や
意見のやり取りが十分出来ていないと感じる。

「ゲーム感覚」でやったことがいじめになってしまうことがあるが、人がどんな
気持ちになるか、人の心を大事にすることを家庭教育で出来ないか。学校教育に全
部責任があると、いじめが起こった時になっているような気がする。

地域や家庭での教育を進めていかないと、複雑になっているいじめの背景を解
決していくのは難しいと思う。今、家庭や地域での子どもへの教育の現状を、皆さ
んはどのように捉えておられるのかお尋ねしたい。

（委員） 民生委員の多くは学校支援に携わっており、登校の見守りや学校の消毒などを
されている。いじめの件についても、心配され関心をもたれている。

子どもの気になる行動を家族に伝えるときに、一部の情報だけでなかなか伝え
るのは難しいなという話がよく出てくる。私も学校に勤めていたということもあり、
家に言えない場合は学校の先生に伝え「こういう姿を見たが、どうだろう
か」ということを、学校から喋ってもらうといいと話している。

関係が希薄になってきているという意見があったが、家庭のことはデリケート
な部分であり、地域の教育力も失われてきていることは痛感するところだ。民生
委員の中にも、研修を行って子どもの現状を知りたいという意見は多くあり、本
年度の計画に取り入れている。

今、報告された重大事案は、教育委員会なり市全体が緊張感をもち、「いじめ
をなくしたい」という思いのもとされていると感じた。文科省もいじめゼロとい

うのは決していいことではなく、いじめが沢山報告があるというのは、対策をしていると解釈するなど、あつてはいけないが、あるという視点に立って見ていくことは、とても大事だと思う。

1件目の事案で言うと、最終的には保護者や本人が納得できるまでしなければいけないのかと思ったが、大変難しい問題があるなと感じた。

また、2件目の事案では、最初は些細なことで、重大事案になるということは、当事者は全然思っていなかったと思う。30日以上休んだという事実をもって重大事案として対応するのは当然のことで、必要なことと思うが、被害と加害の関係は複雑な部分もあり、対応が難しいと思った。

3件目の事案の転校したというのがあるが、学校側は非常に辛いことだと思う。相談を受け「どうぞ」と言えず、引き留めることもするだろう。学校としてどう対応するのか、場合によっていろいろだと思うが難しい問題だ。

(委員) 保護者からの観点から、私も子どもを育てており、些細なきっかけだと思うが、いじめはどちら側にもなりえてしまうと感じた。核家族化が進んでおり、親の目の届く所では、子どもの声も聞いて言葉遣いなど注意はできるが、目が離れたところでは自信がない。先ほどの報告でも、友達のことを思った行動がいじめにつながってしまい、どのように対応すればよいか難しい問題だなと思った。

(委員) 一言でいじめと言っても、内容、要因、程度も様々だと思う。各ケースに応じて、関わっている学校だけでなく、スクールカウンセラーやSSW、発達支援センターなどと連携し、対応をコーディネートするなどして、役割分担は大切だ。対応の範囲は、はっきりとした線引きはなくグレーであり、お互い協力して連携して、各機関がそれぞれ取り組むべきだと思う。

(委員) 家庭の教育力について、日頃感じている事だが、昔は子ども達が学校でいろんな成功や失敗の経験をして、子どもなりに自己肯定感とか、自分は学校、集団の中で「役にたっているな」という自己有用感を感じた。家庭でもそういったことを感じる機会があった。

保護者と話していると忙しい方が多い。子どもが学校で感じたことを家で十分共有できていない、家での子どもの役割が少なくなってきたり、自己肯定感や自己有用感を家庭で感じる機会が減っていると感じている。

私は入学式やPTA総会で、是非子どもと過ごす時間を十分にもってほしいというお願いをしている。本校の生徒会ではシトラスリボン運動に取り組んでいる。三つの輪で、学校・家庭・地域を表しており「ただいま、おかえり」ということが心から言える関係づくりを進めていきたいという願いで作られた。

今、学校ではコロナで一定期間欠席をする子どもがいる。そういった子どもへの偏見や差別もずっと課題だと思っている。学校に復帰するときに「おかえり」といえる学区づくりをしたいと考えている。この運動は地域や家庭に発信をして協力を求めている。子どもを見守る良い環境づくりを進めていきたい。

(委員) 本校では、学期に1回アンケートを取っているが、子どもたちから上がってきた声を丁寧に聞き取って、いじめを疑うようなものがあると、校内委員会を開き、保護者にも連絡を取り連携をとって対応をしている。併せて保護者にもアンケートを取り、チェックリストに基づいて、保護者からの声も聞いている。ただアンケートを取るだけでなく、その直後に、どれだけ保護者と関わるかをすごく大事にしている。そういう取り組みを3年ほど続けていると、保護者の方から学校に心を開いてくださることも多くなってきた。先日、学習参観をしたが、「話を聞いてほしい」と言うことで、相談に来られることがあった。継続した取り組みが功を奏したと思っている。

(会長) 私も様々な感想をもったが、大人の不具合や面倒な部分が間違いなく子どもに影響していると感じた。今、市役所はもちろん社会全体で働き方改革をやっているが、子どもとの接し方ももう一度見つめ直す必要があると考える。今後も、皆様からいただいた御意見を行政としても形にしていければと思う。